第40回高エネルギー加速器セミナー OHO'23 2023年9月5-8日

中性子ビームライン

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所

伊藤晋一

物質·生命科学実験施設(MLF)



BL12にHRCを例にとり、中性子 散乱実験による実験研究や装 置構成について紹介する

BL12 HRC 高分解能チョッパー分光器 High Resolution Chopper Spectrometer

中性子ビームライン

高分解能チョッパー分光器HRCによる 中性子非弾性散乱実験

1. 中性子非弾性散乱 2. 高分解能チョッパー分光器HRC 3. HRCの構成機器 4. 中性子ブリルアン散乱 5. おわりに

中性子の性質と中性子散乱実験

・電荷 0 バルクでの散乱、物質内部まで進入

原子番号には依存しない核散乱断面積

→ 結晶構造の研究

・スピン 1/2 核散乱断面積と同程度の磁気散乱断面積 → 磁気構造の研究

・質量 1.675×10⁻²⁷ kg 波長とエネルギーが固体の格子間隔・素励起と同程度 → ダイナミクス(運動状態)の研究

$$\lambda = \frac{h}{mv}, \quad E = \frac{1}{2}mv^2 \qquad \begin{array}{l} \lambda = 1.8 \text{ Å} & 1 \text{ Å} = 10^{-10} \text{ m} \\ E = 25 \text{ meV} & = 0.1 \text{ nm} \\ v = 2200 \text{ m/s} & 1 \text{ eV} = 1.6 \times 10^{-19} \text{ J} \end{array}$$

中性子非弾性散乱実験 – 物質の素励起の検出





E (meV)	λ (Å)	k (Å⁻¹)
0.1	29	0.22
1	9	0.69
10	2.9	2.2
25*	1.8	3.5
100	0.9	6.9

 $*E = k_{\rm B}T, T = 290 {\rm K}$

原子の運動状態 – 物質中の波 – 格子振動



運動方程式



分散関係(波数と振動数の関係)







 $E = E_i - E_f$ エネルギー遷移:素励起の振動数 $\vec{Q} = \vec{k}_i - \vec{k}_f$ 散乱ベクトル:素励起の波動ベクトル

 $S(\vec{Q},E) \sim \delta(E - \hbar\Omega(\vec{Q}))$ 中性子は右の条件を $\begin{bmatrix} E = \hbar\omega \\ \vec{Q} = \vec{q} \end{bmatrix}$ 満たすとき散乱される $\begin{bmatrix} \vec{Q} = \vec{q} \end{bmatrix}$

反強磁性体CsVCl₃の磁気励起

S. Itoh et al., Phys. Rev. Lett. 74 (1995) 2375, J. Phys. Soc. Jpn. 81 (2012) 084706.



マルチフェロイック物質 NdFe₃(BO₃)₄ S. Hayashida et al., Phys. Rev. B 92 (2015) 054402.



Fe: $\boldsymbol{S}_i = (S_i^x, S_i^y, S_i^z)$ Nd: $\boldsymbol{J}_i = (J_i^x, J_i^y, J_i^z)$

J_1 (meV)	J_2 (meV)	J_3 (μeV)	D (μ eV) (fixed)	X ²
-0.482	-0.054	7.9	23.5	0.993

マルチフェロイック物質は磁気秩序と強誘電 性を同時に示すものである。Fe³⁺の磁気秩 序化により結晶構造が低対称化し、電気分 極を発生させる。

Nd³⁺は、結晶場(D)で決まる磁気異方性を 持ち、Fe³⁺とNd³⁺の相互作用(J₃)をとおして、 Fe³⁺の秩序化を制御し、マルチフェロイック 特性を発現することを表わしている。









holder

6 cm

Fe_{0.7}Mn_{0.3} 40g Aligned crystal Nd₂Mo₂O₇ 48g Co-aligned crystals

多彩な分散関係



分散関係は原子間相互作用で決まる

原子間相互作用により物性が発現する

中性子ビームライン

高分解能チョッパー分光器HRCによる 中性子非弾性散乱実験

1. 中性子非弾性散乱
 2. 高分解能チョッパー分光器HRC
 3. HRCの構成機器
 4. 中性子ブリルアン散乱
 5. おわりに





 $\begin{array}{lll} E_i = 1 \ eV & v_i = 13.8 \ km/s \ \Delta t_m = 2.5 \ \mu s & L/v_i = 1.37 \ m s \\ E_i = 100 \ m eV & v_i = 4.37 \ km/s \ \Delta t_m = 7.9 \ \mu s & L/v_i = 4.34 \ m s \\ E_i = 10 \ m eV & v_i = 1.38 \ km/s \ \Delta t_m = 25 \ \mu s & L/v_i = 13.7 \ m s \end{array}$



$$E = E_i - E_f$$
 エネルギー遷移
 $\vec{Q} = \vec{k}_i - \vec{k}_f$ 散乱ベクトル

$$E_i = mv_i^2/2 = \hbar^2 k_i^2/2m$$
 入射中性子

 $E_f = mv_f^2/2 = \hbar^2 k_f^2/2m$
 散乱中性子

 $\hbar k_i = mv_i$
 $\hbar k_f = mv_f$

$$t = t_1 + t_2$$

 $v_i = L_1/t_1 = (L_1 - L_3)/t_{ch}$
 $v_f = L_2/t_2$

$$Q_{x} = k_{i} - k_{f} \cos \phi$$

$$Q_{y} = k_{f} \sin \phi$$

$$Q^{2} = k_{i}^{2} + k_{f}^{2} - 2k_{i} k_{f} \cos \phi$$

$$(\phi_{v} = 0, Q_{z} = 0)$$

実験条件	$E_{\rm i}\left(t_{\rm ch}\right)$
飛行時間	t (測定)
検出位置	φ, φ_v (測定)







 $q_{a} = k_{i} \cos \psi - k_{f} \cos (\phi - \psi)$ 中性子は右の条件を満 $\begin{bmatrix} E = \hbar \omega \\ q_{b} = k_{i} \sin \psi + k_{f} \sin (\phi - \psi) \end{bmatrix}$ たすときに散乱される $\begin{bmatrix} Q = \hbar \omega \\ Q = Q \end{bmatrix}$



中性子ビームライン

高分解能チョッパー分光器HRCによる 中性子非弾性散乱実験

1. 中性子非弾性散乱
 2. 高分解能チョッパー分光器HRC
 3. HRCの構成機器
 4. 中性子ブリルアン散乱
 5. おわりに

HRCの 構成機器

ガイド管















T0チョッパー





検出器





フェルミチョッパー







フェルミチョッパー









回転数 100Hz,制御精度 ±5μs 年間運転時間 4000時間,連続運転時間 1000時間 ローター:Inconel X750,120kg,4.7kgm² モーター:AC servo,10kW,50Hz,空冷 軸受:水冷、真空:1Pa 軸受(径45mmφ,100Hz):玉軸受+真空用グリース $\Delta t = \Delta w/2\pi Rf$ w=80mm, $\Delta w = \pm 1$ mm, R=300mm, f=100Hz $\Delta t = \pm 5\mu s$: **制御精度** t=(w+ Δw)/2 πRf , E=m(L/t)²/2 E $\leq 2eV$: L $\geq 8m$

HRC: w=76mm, L=9.0m, E \leq 2.5eV blade: 78mm \times 78mm \times 300mm t = 408 μ s



T0チョッパー

機械加工:公差(~10µm)、回転バランス(G1)



. . .







ガイド管







中性子検出器





入射コリメーター





collimator 1.5° for L2 = 4m 0.3° for NBS

CsVCl3 on HRC T = 20 K, Ei = 100 meV

(a),(b): no collimator, (c)=(a)-(b)

(d): 1.5° collimator

Intensities (color scale) in (a),(b),(d) are normalized by measuring time.



オシレーティングコリメーター





試料環境

試料環境	制御範囲	利用可能時期	
GM冷凍機	T = 4 – 300 K	通年	1
1K冷凍機	T = 0.6 – 300 K	通年	2
超伝導電磁石	H ≤ 5 T, T = 0.3 – 300 K	1-4月	3
圧カセル (シリンダー型)	P ≤ 1.2 GPa	1-4月	4
Cryofurnace	T = 4 – 700 K	コミッショニング中	5
³ He sorption型冷凍機	T = 0.3 − 300 K (100時間持続)	コミッショニング中	6



多重試料環境での非弾性散乱実験

S. Hayashida et al., Sci. Adv. 5 (2019) eaaw5639.



自発的対称性が破れた系における量子臨界点近傍のスピン集団励起では、非自明なHiggs振幅(L)モードが存在する。三角格子磁性体CsFeCl₃の圧力誘起磁気秩序相におけるスピン励起を観測し、そのモード解析を行った。non-colinearな磁気構造をもつフラストレーション系のため、NGモードとHiggsモードの混成が生じることが明らかとなった。



B₄Cレジン板(B₄C微粒子をエポキシ系接着剤で 整形後、加熱してエポキシ系接着剤を飛ばす): 試料から散乱した中性子のみを検出するため、 他の経路から来る真空散乱槽内の散乱を遮蔽



スクロールポンプ(排気速度630 m³/h)

+メカニカルブースターポンプ(排気速度2050 m³/h)を2組設置 クライオポンプ

口径 750 mm、排気速度 28 m³/s、交差圧力 350 Pa m³ 50 m³の真空容器では切替時圧力は7 Pa以下、5 Paとする

大面積アルミ窓



HRC Experiment Control Environment



中性子ビームライン

高分解能チョッパー分光器HRCによる 中性子非弾性散乱実験

1. 中性子非弾性散乱
 2. 高分解能チョッパー分光器HRC
 3. HRCの構成機器
 4. 中性子ブリルアン散乱
 5. おわりに

HRCにおける中性子ブリルアン散乱実験



金属強磁性体SrRuO₃におけるワイルフェルミオン

S. Itoh, Y. Endoh, T. Yokoo, S. Ibuka, J.-G. Park, Y. Kaneko, K. S. Takahashi, Y. Tokura, N. Nagaosa, Nature Communications 7, 11788 (2016).



金属強磁性体SrRuO₃におけるワイルフェルミオン

S. Itoh, Y. Endoh, T. Yokoo, S. Ibuka, J.-G. Park, Y. Kaneko, K. S. Takahashi, Y. Tokura, N. Nagaosa, Nature Communications 7, 11788 (2016).



電子の波動関数の位相(ベリー位相)によって生じる仮想的磁場が中性子非弾性散乱の 観測量であることを示した。



中性子ビームライン

高分解能チョッパー分光器HRCによる 中性子非弾性散乱実験

1. 中性子非弾性散乱 2. 高分解能チョッパー分光器HRC 3. HRCの構成機器 4. 中性子ブリルアン散乱 5. おわりに